

共生社会ホストタウン追加登録団体の活動計画（2021年3月30日）

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
村山市 (山形県)	ブルガリア	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <p>・日本人パラリンピアン上原大祐氏（パラアイスホッケー選手）による小学生、特別支援学校児童生徒、学校教諭、保護者、その他一般市民を対象にした講演会を実施し、障害への理解と心のバリアフリーについて理解を深めた。東京大会時は、ブルガリアパラ陸上選手と市民との事後交流として、心のバリアフリーを身近に感じながら理解を深めることを予定している。</p> <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <p>・2019年に、市民体育館の玄関やトイレの段差をなくす改修を実施した。また2019年の市内小学校建替の際には、点字ブロックの設置や階段とスロープの併設、エレベーター設置等、バリアフリー工事を実施した。市役所構内においても、障害者向け駐車スペースを多く確保している。今後も、にぎわい創造活性化施設（廃校を改修して2022年開設予定の複合型コミュニティ施設）のエレベーターやスロープ設置の改修工事を行う等、バリアフリー対応を進める予定である。</p> <p>【心のバリアフリー】</p> <p>・東京大会の事後交流実施時や、交流前の事前研修として、心のバリアフリー促進のために市民や職員を対象とした、心のバリアフリー研修を予定している。市の職員の採用時に障害者枠を設定し、事務補助員として市役所内の事務作業を行っている。また、現在もヘルプマークやヘルプカードの市民への配布を行っており、今後も継続して普及を促進していく予定である。</p>
邑楽町 (群馬県)	トンガ	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <p>・2020年11月にポッチャ選手の海保美宏氏やトンガ王国関係者及び町民300人の参加の下、ポッチャ等のパラスポーツ体験会を開催した。毎年10月に町民約5,000人が参加している町民体育祭では、2018年は中村国一氏や金井隆義氏などのパラ陸上選手4名を招致し、町内小中学生との交流や義足体験コーナーも設置する等、共生社会に向けた理解促進を図った。トンガ王国のパラ陸上選手との事後交流では、小学生がトンガ王国国歌斉唱、中学生が歓迎メッセージ及び町の特色を英語で披露する予定である。</p> <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <p>・車椅子利用者が一人で外出ができるよう、役場庁舎や生涯学習施設等の建設に際して、点字ブロック、思いやり駐車場、エレベーターを設置した。また、車椅子対応の窓口の設置、施設の出入りの幅を広くする等、全ての人にとって利便性及び安全性を考慮した設計とした。今後も、障害者等の移動の利便性及び安全性の向上のため、公共交通機関のバリアフリー化を図るとともに町全体のユニバーサルデザイン化を目指す予定である。</p> <p>【心のバリアフリー】</p> <p>・町内小中学校では、障害者や多様性への理解促進に向けた人権学習を実施している。毎年10月に町民約400名が参加する人権講演会では、2018年は書家の金澤翔子さん親子を講師に、多様性の理解促進に向けた講演会を実施した。毎年11月に町内外約5,000人の来場者がある「邑多福まつり」は、障害者団体の活動報告、心のバリアフリー講演会、障害特性への理解を深めるための車椅子等を使用した疑似体験等を、行政、企業、障害者団体等が連携して開催している。</p>
名古屋市 (愛知県)	カナダ(車いすバスケットボール)、ウズベキスタン	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <p>・2020年2月にカナダの車いすバスケットボール事前キャンプを受け入れ、小学生や地元選手混成チーム等との交流を実施した。東京大会のカナダ車いすバスケットボール事前合宿、ウズベキスタンとの事後交流も心のバリアフリーの機会と捉え、オンライン交流等のパラリンピアンと市民の交流を実施する予定である。パラスポーツを通じた市民との交流を促進し、東京大会後も交流事業のレガシーを継承して、市民の障害に対する理解の促進と共生社会の実現を目指す。</p> <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <p>・名古屋市長・久屋大通地区交通バリアフリー基本構想などのユニバーサルデザインの街づくり事業の適正な実施を図るため、学識経験者や福祉関係者から構成される「福祉のまちづくり推進会議」を設置し、進行管理や検証を行っている。幅広い視野からの専門的な助言をもとに、公共交通機関のバリアフリー化、UDタクシーの導入補助、歩道等の段差解消、公園・学校トイレの洋式化等を進めている。</p> <p>【心のバリアフリー】</p> <p>2020年11月に開催した「誰もが共生できる社会を実現する名古屋フォーラム@ウイック愛知」では、名古屋市障害者スポーツセンター等と連携のうえ、ウズベキスタンのパラ砲丸投げのノルベコフ選手やパラ陸上の井谷俊介選手に出演いただき共生社会へのメッセージを発信していただくことで、広く名古屋市民に共生社会の理解を促進した。引き続き、民間団体等とも連携して心のバリアフリーや障害への市民の理解を深めるよう推進していく。</p>